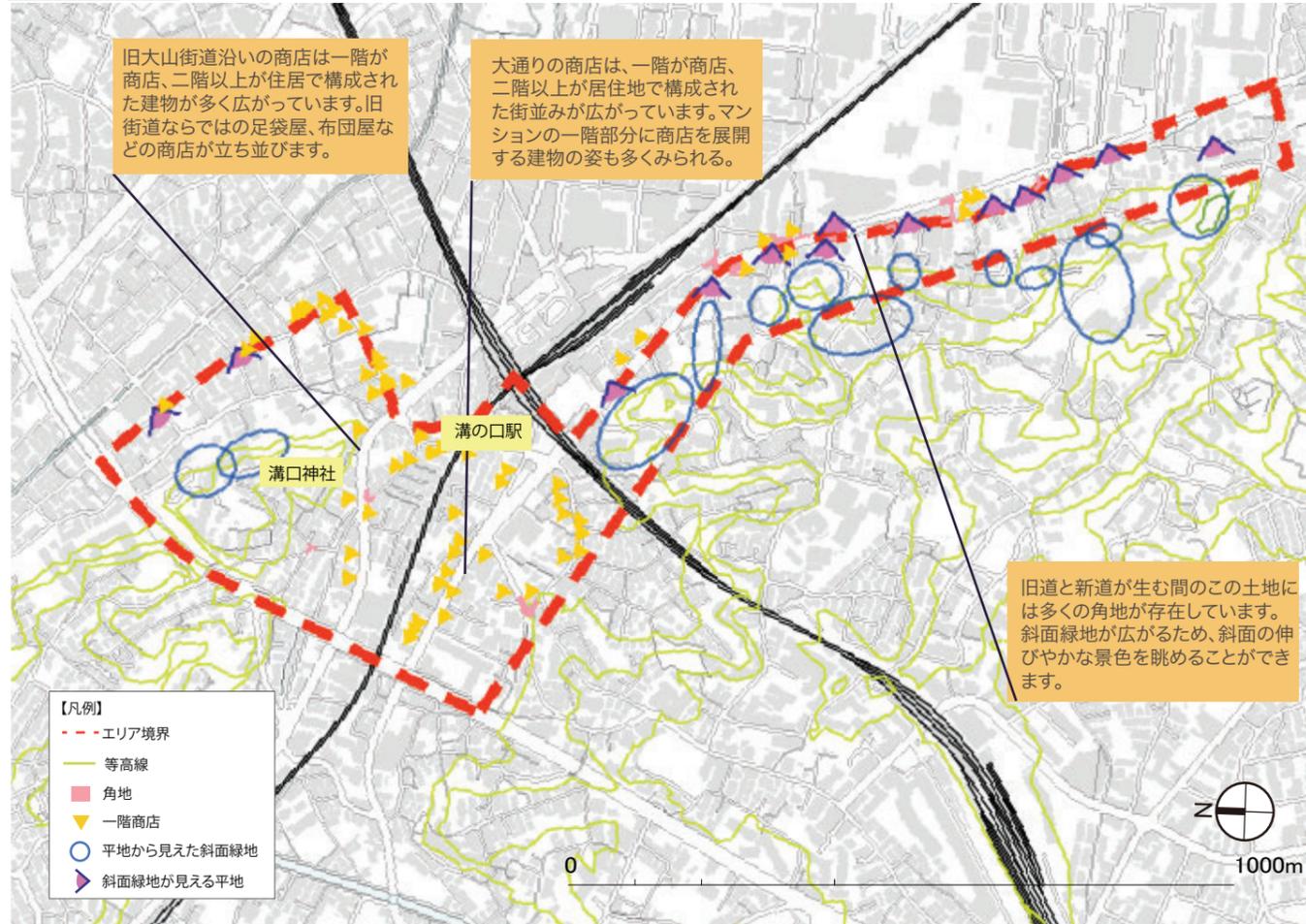


5-1 溝の口斜面エリア

南武線の西側地域は、地形的に西へ向かって緩やかに標高が上がっていく丘陵地帯であり、斜面に沿って住宅地が広がっています。地域内には細く入り組んだ道が多く、古くからの住宅地ならではの複雑な街路構成が見られる点が特徴的です。また、南武線の南側にはかつての生活道路であった曲線的な旧道が今も残っており、それと対照的に、区画整理により整備された直線的な道路も存在します。これにより、過去の街路の名残と現代的な都市構造の違いを比較しながら観察することができ、地域の歴史や都市形成過程を読み取ることができます。

景観特性



1. 平地から見える斜面緑地



このエリアでは、平地から西側の高台を望む位置関係にあるため、街路の一部から斜面上の住宅や緑地を見上げる景色が広がっています。特に、崖のような急な高低差がある箇所では、立体的な都市景観が形成されていて、日常の中に変化のある視界やランドスケープの豊かさを感じられます。

2. 旧道と新道の角地



駅周辺では新道の整備によって旧道との間に隙間が生じ、様々な不整形の狭小角地が点在しています。これらの敷地は間口が非常に狭いものや奥行きが偏ったものが多く、一般的な宅地とは異なる特徴を持ちます。敷地形状に合わせた建て方が周辺エリアの独特な街並みと景観を創り出しています。

3. 店舗併用住宅の街並み



溝の口駅北側のエリアでは、1階に飲食店や物販店舗が入り、2階以上が住居となった店舗併用住宅が多く、街道沿いに立ち並んでいます。これらの建物の前には比較的広めの歩道が整備されており通行しやすく、店先のディスプレイなどがまちに開放感と親しみやすさを演出しています。

景観形成の目標

斜面緑地を守り、共存した住みやすい景観へ

本エリアは旧道と新道が交差し、昔ながらの街路と新しいまちづくりが共存するエリアである。そこで沿道住宅のプライバシーを確保し、防犯面の向上も図りながら、連続した街並みを目指す。商業と居住が程よく沿道に開放され、通りに解放感と安心感をもたらしながらも、住宅のプライバシーを守る景観形成を目指す。

景観形成の方針

1. 平地から見える斜面緑地を保全する

景観形成の考え方

平地からも緑を味わうことのできる斜面緑地を守ることで、立体感のある街の自然景観の保全を目指す。

具体的な方策

- 斜面に面した住居の壁面に生垣、木、花などの緑を取り入れ、斜面緑地の景観を保護する。
- 自然と建物の調和を図るため、建物の色のトーンを抑える。
- 午前中に日が当たる地形を活かし、斜面における園芸を推進する。



傾斜に合わせて生垣や園芸の推進
斜面緑地の保全

2. 角地を活かした生活空間をつくる

景観形成の考え方

多方向からの視線や通行を受け止める開放感を活かし、街の中でアイストップとなる角地が周囲と調和しながら広がり賑わいを生み出す空間づくりを目指す。

具体的な方策

- 多方向からの視線や通行人の動きに考慮した開放的な建物配置を行う。
- アイストップとなる角地には特徴的なアイストップデザインを採用し視覚的なアクセントとをつくる。
- 周囲の街並みと調和する素材や色彩を採用する。



アイストップとなる角に休憩用ベンチを設置
角地を活かした空間形成

3. 商業と居住が調和した開放的で安心できる景観

景観形成の考え方

商業と居住が程よく沿道に開放され、通りに解放感と安心感をもたらしながらも、住宅のプライバシーを守る景観形成を目指す。

具体的な方策

- 住宅のベランダ部分に緑のカーテンを配置する。
- 近隣の店舗併用住宅にも緑のカーテン設置を促進し、沿道に統一感を広げる。
- 地面に埋め込み型の照明を設け、夜道に安心感をもたらす、沿道に連続性を与える。



プライバシーの確保と環境への配慮
足元ライトの設置で夜道の安全確保。
商業と住居が調和し安心できる景観